

第4回(仮称)市民活動推進条例検討会 記録

【日時・場所】

平成 28 年 6 月 25 日(土)9:00～11:00 402 会議室

【記録】

①前回のまとめ

7/9のシンポジウムについて

②鎌倉市で必要な施策について「役割を誰が担うのか」「支援対象」

2チームに分かれてワーク

■ チーム1

- ・誰がやるか、行政か、市民か が考えられる。
- ・前回までに皆さんから出てきた案がこの表に挙げられているので、色んなものがあります。足りないものも含めてやっていきましょう
- ・6 番の仕組みから始めます。過去の中から出ていの中から抜き出している、意見を出してほしい。役割についてメモして頂いて貼っていきましょう。
- ・地域のつながり推進課だけがやるのではないということを表明させていくことが大事。それぞれの課でやっていくようになるとこの条例が全市に行き渡るようになるのでそこを突いてください。
- ・NPOも市と協働で、大学と民間と市と町内会でやったけれど、政策創造課が1本で受け入れてやった。その時は市長に相談に行ったり、市役所内で相談してもらったりして良かった。
- ・市の窓口をどこか1本あればということですか？
- ・その時は地域のつながり推進課が窓口でした。今後はここ(地域のつながり推進課)なんですね。
- ・市民協働の条例となったら、地域のつながり推進課だけでなく全庁的な条例にすることが大事ではないか。調整は地域のつながり推進課ができるにしても、個々の課で対応するとか、これは全庁的なものだとか、その都度考えられる空気感にしていくことが大事なのではないか。
- ・指定管理についても担当課によって全然扱いが違う。地域のつながり推進課の職員は分かっているが、他の課では全然分かっていたということがある。
- ・そこをどうするのか？
- ・今市役所の中で大まかな課の分担は見えるが、何をどこでやっているのか分かるような分担表はあるのか？そういったものを作ろうとしているのか。
- ・条例は市全体を動かすようなものだから、これが出来たら全てがこれで動くようになる。その引き金だから、うちの課以外は全部バラバラということを全て統一させたり、市民協働では市民と協働でこういうことをする という位置づけが条例に書いてあるということで始まっていくことになる。
- ・今まで皆さんが困ったり、苦勞されてきたことから、こういう所をきちんとしてもらいたいということ、それぞれの役割を明示する。
- ・NPOセンターとか、市民と行政を繋ぐ中間支援組織の役割を出したい。
- ・それは委託して市民グループが受けてやるのも良いと思う。

- ・協働コーディネータ制度は、コーディネータを集めて調整する役。役所がそこまで手が回らないとしたら、中間支援組織とか。
- ・委託実績のデータを整理する所は、実はない。
- ・企画調整課はどうなの？→経営企画課です。経営企画って分かりにくい。
- ・他の自治体でいうところの企画課です。経営という観念を入れてマネジメントしていくということでネーミングしている。全体の政策を調整していく。
- ・NPOは地域のつながり推進課。市民協働を地域のつながり推進課だけにするのか、もっとトップダウン的な形にするのかによって姿は変わる。
- ・市民協働は市民とつく課が担当と思える。
- ・鯖江市は鎌倉市と規模が違う。小さいから動きやすいということもあるかもしれない。新しいこともどんどんやりやすいかもしれない
- ・逗子は色々なことをやっている。子供のことも。逗子はあの小さなセンター1つあるだけで済んでしまうことも結構ある。
- ・職員に聞かれたくないこともあるのではないかな。必要な時に打合せをして。距離感が大切。すぐそばにはいないけど、何かあったらすぐに行ける距離感。スープの冷めない距離。
- ・NPOセンターが出来た当時言われていたのが、隣にはいないけど、行こうと思えばすぐに行ける距離。歩いて10メートルの同じ敷地にあるというのはすごく良い。
- ・本当は自分達の作業場所にある方が良いと言っていたが、結果的には役所の近くにある方が良かった。
- ・鎌倉のNPOセンター、ある程度広い所の方が使い易いのでは？
- ・横須賀のNPOセンターは広いし、打合せが終わった後に話ができる時もある。
- ・鎌倉は交流センター的なものはない。
- ・鎌倉市の規模というより団体数の規模からするとスケールが小さい。どうしても入りきらないから作業も皆で譲り合いながらやる。交流的な機能ができない。
- ・当初は入っている団体も少なかったから、ちょうど顔が見えていいねと言っていた。でもあそこまで機能が膨れてしまうと全体のスケールが追いついていない。場所がうつればその機能は解消できるのかもしれない。
- ・岡本にうつってもやはり役所の近くに欲しいとなれば、鎌倉学習センターの案もあったんですよね。
- ・4階のフリースペースを使っていると似たようなことをやっていると思って情報交換することも時々ある。
- ・今、ふつうの課が会議をそこでやってることがある。選挙が始まると益々部屋が取れなくなる。
- ・NPOは市の会議室を使えたりしますか？→使えませんが、基本的には使えないが、どこかの部署と一緒に入ってやりましょうとなると使える。申し込んでフリーに予約が取れるというようなものではない。
- ・ただでさえ会議室が足りない状態なんですね。市役所の中でも場所が少ない。
- ・NPOとしてはあんな所で10年もどうしようもない。10年後くらいには見直しが必要だと言ってたら、

- 20 年も経ってしまった。それでもまだあんな所でやっているのだから。条例と共に建物のことも。
- ・今は皆さんどうしているのですか？ 公民館とかですか？
 - ・福祉団体は社協を使うことができる。社協に加入している団体はNPOセンターと社協を使い分けてる。それ以外の団体は困る。社協の方が取りやすい。
 - ・色んな団体が同じ場所内のあちこちでやっていて、あれっ！と言った時に交流ができると良い。横須賀は広いので作業しているスペースの横で打合せをしているのが良い。それをやらないとNPOが伸びない。
 - ・横須賀は鎌倉の芸術館に当たるものが上にあって、1階はサポートセンターが入っている。
 - ・今は市民団体と共済が入っているのですか？ → 指定管理者でロッカーも印刷機もある。鎌倉はほとんど満杯。
 - ・これは何の話から出て来たのかな？ 市民協働とか市民活動支援にこれが必要ということ？
 - ・観光課と観光協会とダブっているのではないかと思う。そういう所までいく？
 - ・外郭団体としての役割で、違うけれど同じようなことをやっているという所はある。出向市民に委託しても良いのではないかということ。
 - ・経費節減ということで協働推進が最初にやったのは、市の既に持っている色んな企業とか、外郭団体とかと一緒にやっているものをもっとスリム化していくと、同じようなことを2か所でやっていることを一つにすることによって浮いた財源をNPOに回して欲しいということで調べた。なかなか出てこない。
 - ・それはいつも考えておかねばならないことで、50 年前、30 年前のもので要らなくなったもの、2 年前でも要らなくなったものはある。でもそれを市民が全部目を光らせているのはなかなかできない。
 - ・それは市の職員の中で、これは民間に任せた方が良いのではないかと、とかという議論はしてないのですか？ → 中ではやっている。事業の見直し、外部委託化、効率化毎年見直しをかけている。
 - ・その他に市民が入って 100 人会議がやりました。市の政策全体について。→それは何年か前の話ですよ。自治基本条例の時です。→事業仕分けが流行ったので、鎌倉でも市民委員を募ってやりました。市民事業評価をやった。2 年くらいやった。あれはその後お蔵入りになった。
 - ・中身を知らない人が評価するのは。中の職員がやればよい。
 - ・実際に仕分け結果をみたら、こんな大切なものがどうして？ということはある。
 - ・本体は職員がやること。外の人がやっても出来ないと思う。中の人が一番良く分かること。
 - ・その時に市がNPOを育てようという気があれば、今この部分を削ってNPOでやれるところありませんか？という提案を提案事業として出してくれると良いのですが。育てようという気がないと、指定管理にして審査会をやって鎌倉市のNPOではない大阪のどこかの企業にお金を上げてしまうことになる。
 - ・指定管理者制度の見直しで市民活動推進の視点、市内のNPOを育てる視点。
 - ・委託仕様書の見直しは？そもそも委託で良いのか？委託の仕組みが市民に投げる仕組み。ただ皆さんの意向とは合わない。

- ・協働仕様書は、意見を取り入れながらより良いものを作っていきます。ということで、委託とは仕組みが違う。
- ・条例の中に“委託”という言葉が出てこない方が良い。入れるかどうかはあるにしても違いをきちんと述べないと皆さんの思いは反映してこない。
- ・2000 年頃にNPOを育てようという意見が出て、こういう形で育ってきたのだけれど、NPOって何なのかな？何のために市民と行政が一緒になってするのか？多分予算の問題だと思う。企画があっても予算がない。知識、技術など色んなものがあり動けるが、それに責任を持って動けるかという問題が出てきた。
- ・NPOには企画を立てて実行できるかという問題が残る。一つの団体では絶対にできない。いくつかの団体を合せてやっと一つの仕事ができる。
- ・協働の予算はいつも別枠で考えているが、別枠ではなくて市の予算の一部を協働でやった方がいいのではないかと、そちらに考え方を持っていかなないと進まないと思う。別枠に 100 万円があるが、100 万円に 10 万円乗せることは絶対に無理。
- ・そういったことも考えて進めていかなければならないと思う。
- ・その仕組みづくりが出来ていないように思う。今年も昨年も地域のつながり推進課から予算を取ってしまった。茅ヶ崎市のように 1 千万円、1 億円のお金を最初から市の予算中から取っておく。これは委託です、協働ですという目的が分かっているものは、誰に何をしてもらうか、割り当てる。
- ・毎年応募してくるNPOの中でそこまで育っている団体は少ない。
- ・行政はNPOのことを知らない。NPOも行政のどこと話をしたら良いか分からない。お互い分からないもの同士。どの課が何をやっているのか分からない。
- ・ここまで育っているNPOを地域のつながり推進課が育てるのではなくて、いきなり指定管理者にもっていったから上手くいかない。
- ・市から指定管理者に出したとしてもその会館などは使えるのですか？→この会館を誰が使うかという時に3、4年かけてNPOに育ちながら運営していた一団体が、NPOでまだ土台がないし、歴史がないからここは信用がおけないからという理由でダメだった。
- ・市の職員のOBで作った団体がやってたものを指定管理者となって第三者が入ってきた。
- ・芸術館は企画力がすごく大きなウエイトを占めるが、職員にはそれだけの力量がなかったような気がする。業務が全く違うから。そういう所は市民団体や専門家を導入している。職員がやれば良いというわけではない。
- ・子育てでもう一つ問題なのは、市内保育園に入っている地域のセンターに今年初めて市民団体が入った。その団体は子育てサロンを作って 10 年くらいその地域の親子の繋がりを作っていた。そこも来年指定管理者になると同じことが起きる可能性がある。指定管理者にしないで協働事業でできないか。財政基盤がないというなら、財政の専門家をこの組織に呼び込んでそれも市が応援して、その中で財政的なことも含めて市がしっかり育ててすれば指定管理者になれるのではないか。場所は既にある。でもその場所が何の目的のためのものかより地域に密接に繋

がっていることが大切。目的ごとに指定管理の役割は変わってくると思う。建物の運営は維持管理が多い。

- ・子育て支援センターは、赤ちゃんを連れてこなければならぬので、歩いて来れる所にそれぞれの地域に必要。今まではそういう所には市内ではないがしっかりした所(団体？企業？)が来ていた。でもずっと続けていた鎌倉、大船は地域に根付いた。でも岡本はそれを(団体？企業？)使わないで中から生まれた団体で、やっと育った。だから別な組織を使わずその団体がずっとやれたら良いと思う。
- ・NPO団体や、ずっとやってきた団体で、後は職員みたいな形で雇うなどの形は取れないわけではないですよ。全く第三者や市外の団体を活用せずに。
- ・地域の繋がりを優先するのか、何を優先するのかだと思う。
- ・そこに市の職員が入ると全然カラーが変わって、行政になってしまう。
- ・子供会館も最初の2年は市の職員が入っていた。職員が他の子ども会館ルールに縛られる。そういうルールに縛られず、自由に運営出来て、しかも地域に受け入れられて何も問題が起きなければNPOで良いわけ。NPOの特性は、規制の市のルールに縛られず、自分達の自由さを発揮出来ること。しかも来園者や周囲の人たちに受け入れられていけば良い。そういう自由さが市の職員が入ると無くなってしまう。
- ・認可保育園が良いのは国の基準があるから。お金がなくても認可保育園。
- ・ふるさと納税状況は良いですか？→持ち出しの方が多い。外に出ていくのは税。税の財源は自分の所で落とす。入ってくるのは全て県で入ってくる。
- ・去年は1億2千万入った。返礼金に関しては例えば1万円寄付すると3千円返礼。
- ・使えるお金は流出するのでマイナス。鎌倉を愛してお金を入れてあげようという外の人はいないということですね。残念です。
- ・今回は熊本の震災、箱根災害があったので。鎌倉に魅力がない→それもあります。
- ・鎌倉野菜は生産者が限られているから量ができない。
- ・少なくとも市民協働の目的の為にとお金を入れてくれる人がいるとは思えません。
- ・横須賀でも目的を分けて、指定して入ってくるが、12項目あるうち12番目が市民協働です。それが全然入ってこない。HPでこれはどういうことに使うかを説明した途端に入ってくる。ちょっとした広報で変わる。その目的が外の人にとってメリットがあるかどうか。観光振興になら外の人にも少しはメリットがあるかもしれない。後は横須賀で自動販売機設置による収入が年間300万円くらい入る。そこから支援センターも建てている。
- ・③人材はどうですか？人材はキーポイントになりますね。鎌倉は全国的にも人材はあると思うのですが。知識があつてリーダーがいるか。それは大事。
- ・リーダーというより皆でが大事。一人で引っ張るより皆を巻き込んで進める力。
- ・お金を集めてくる力のある人がいるとそれは凄い強み。体力のある人に任せたり役割分担は上手に。人材はどこかに眠っていたとしても結局、色んな活動をしていると同じ人と会うので、活動する人は限られている。

- ・実際に実力はあってもNPOをやろうとしない人が眠っている。
- ・人材自体をコーディネートする、管理するNPOがあっても良い。それは市役所がやっても限界はあるし、個人情報等を理由に何も出来ないから。
- ・NPOのことを知っている人、会計を知っている人、それをプロボノ制度に生かせるからすごく大事なこと。
- ・逆にNPO団体自体がロクな会計処理をしていないし、最初の頃に出ていた話で会計報告もしていない、経理もしていない、それがNPOなんですかと。
- ・それはそうだが、会計を会社がするようにできればいいかと言えばそれだけではない。(←そういう意味ではない。)それは分かりますが、指定管理でダメだったのも会計処理に落としていないからで、会計報告をしていればそれでいいのか。
- ・それだけではないけれど、そこがしっかりしたNPOでなければ信頼を持ってないということはある。
- ・会計ができる人がいるかというのが最初の話として出てくる。
- ・うちも何百万円と扱っていますが、会計をしている人はプロではない。でもNPOセンターで分かる人に聞いたり、県に聞いて、NPO法人の会計を少しずつ学んで出来るようになっていく。その程度で充分ではないかと思う。
- ・うちは県で紹介してくれたNPO会計ソフトを使っている。NPO専用のソフトがある。
- ・NPOをきちんと育てる講座をしたりする必要がある。そういう制度はあまり自治体にはないので、これから必要かもしれない。
- ・NPO団体同士の連携がやりにくい。鎌倉市は市民性として連携しにくいのですか？そんなことはないですか？
- ・行政が持っていない資格をNPOが持っている場合がある。それぞれの情報を使いたいと思っている。
- ・友情を育てる。それは大事。
- ・行政の中で引継ぎをしていないのが困る。異動の際に引継ぎがされていないのは相変わらず。出来る訳ないでしょと開き直る職員もいる。それに対してどう思います？20年前に同じようなことを言われた。もう今の時代にそれはないだろうと思う。鎌倉は分かる人が多い(市民活動を長く続けている人が多いから)ので、第三者的に鎌倉の全体を見据えている人が居てもいいと思う。それが市民から出てもいいし、市民グループであっていい。それは職員にあまり委ねない方がいいかもしれない。
- ・市の職員が大変だということはあちこちから聞いているけど、引継ぎする暇もないの？そんなことはないと思うが。行政の仕組みだと思う。
- ・NPOの強みは、色んなものに捉われずに色んなことが出来る。継続性もある。すぐに動ける。そこの中で広さだけではなくてその地域で長いスパンでずっとみてきているというのが強み。そこを長いスパンで見たことを見直していくことも含めて見られることを強みとできる見方をNPOの皆さんにしてもらえると良いと思う。
- ・地域計画で協働というのは、何年も前からずっと乗っている。行政は単年度予算でやっているの

で、単年度で切れてしまうが、中長期計画でもう少し協働事業に関するものがあると思う。取り組みやすくなる。

- ・職員のローテーション(異動)が早すぎる。
- ・市よりNPOの方が適任なものがいっぱいある。
- ・協働をする時、市の担当者が変わった時に何かやろうと(担当者が変わるのを)待ってる場合もある。
- ・変わってほしいこともある。いい人(適任者)が来るまではどんどん変わってほしい。なので必ずしも異動が早いことが悪いことばかりではない。
- ・支所に1人でもコーディネートできる人がいればよい。資格を持たない人でも良い。どんどん支所に行って話をすればよい。支所長に相談するのも良い。また細かい問題は町内会長に相談してもらっても良い。出来れば町内会長みたいな方が居てくれるといい。お話が分かる人が居れば行きましようということになる。
- ・若い世代が参加しやすい地区はありますか？
- ・鎌倉はずっと代々市民活動が盛んな街。
- ・若い世代は鎌倉市の活動には入りにくいですか？
- ・既に集まってやっちゃっているの、入る必要性をあまり感じていない。
- ・上から学ぶことはあまりないですか？
- ・そんなことを言ってもやっている人はやっている。機動力は若い人の方があるので、本当は動ける人が動いてくれる方が良い。我々のようなタイヤ組がNPOではないということを。でも知恵や経験は凄い。
- ・最近NPOファンドに申し込んでいる若い団体もあるようですが、5団体くらいあったと思う。
- ・20代、30代の団体はあるが、上の世代との交流がない。
- ・ファンドは結構申し込むところはあるか？ 2年前で10団体ほどありました。お金を集める仕組みは色々な手法がある。ファンドにこだわらなくても。
- ・ちょっとやってみようかなという人達がこれ(ファンド)を使うことによって育つ。
- ・協働は市が育てていく、ということで両方あれば良いのではないかと思う。
- ・鎌倉は大学がひとつしかない。
- ・つながりを持ちたくないという人もいる。地域の為と言いながら、お金の落ちる事業の人たちは入れたくないという話もある。
- ・大学とか大きな商業施設が入ってくるのはイヤだと。かといって戸建ての家がたくさん建つだけでは、人口が増えるだけでと。
- ・仕組みでなにかありますか？ 気になっていたのが、市民側が行政とやりたいと能動的に動いていくのをサポートするような市民活動サポート。
- ・横須賀は両面持っていて、行政側が企画を縦ながら積極的に市民を巻き込んでいっている。行政職員が市民と一緒にやろうという意識を育てないと 双方向がないとやりたい市民だけがやれば良いということになる。NPO支援だけでも狭い範囲で終わってしまうし、そこだけを上手くやっ

ておけば良いという市側の思惑も出てきてしまう。そこをきちんとしないとやりたい市民団体だけを行政は支援していれば良いということになりかねない。全然広がらない。どんな市民でも参加できるというならNPOでなくて、町内会などの支援であっても良い。

- ・市側から仕掛けていくか、受け入れがしっかり出来ている状態でないと広がらない。行政から発動したい。
- ・相互提案も市民側からやりたいと言っても、行政側がお願いしますということがないので、委託事業もあまり出てこない。
- ・昨年から職員研修にもNPO体験研修も入って、前向きになってきた。
- ・行政のことを理解してくれている市民もいる。市民は苦情しか言いに来ないというのが強い中で、そういった意識が出るのはすごく良いこと。
- ・研修制度は義務化ではないけれど、少し考えておくのも良い。
- ・行政と一緒に仕事をしていると、こうやってみませんか？という提案が無い。
- ・やってみたいという話は持って行くが、一緒にやりましょうというのがなかなか伝わらない。
- ・職員にとっては自分たちの仕事を任せるわけだから、任せて大丈夫かという所から入るのは仕方がないとして、きちんと育てていることを保証する制度があれば良いと思う。職員側か預けられるNPOに成長していなければならないし、それが分かなければならない。きちんとNPOを育てる制度は必要だし、繋げる制度も必要なので、そういう所が欠けていないかきちんと見る必要がある。
- ・一緒に作業をした場合、必ず議事録を作る。審議会をやった時にどんな話し合いが行われたかを情報公開で出したら、1枚しかなかった。3週間もあったのにQ&Aで数行しか書いてなかった。その時テープ取ってなかったからと言われたが、テープに取ってなくても良いが、普通審査委員を5人もお金を出して頼んでいるのに、その話し合いが3回あったのに、その記録が取っていないということが本当にあったら、おかしい。
- ・私たちはどんな会議でも必ず議事録を作っておいて、その議事録を基に前にやりましたと言える。引継ぎの時にその議事録を行政に見せて前任者とかいうことをやっていましたよと説明するしかない。それが今当たり前になってきつつある。そんな中で審査委員会の記録がないことを聞いて唖然とした。
- ・市からどういう評価を得ているのか確認する意味で分かるような評価表は欲しい。後から助かっていましたよとか、評価していましたよ、という言葉は要らない。
- ・それは協働のシステムを作って、協働の申込をして、仕事をする最後に報告もし、行政とNPOそれぞれが採点できるような仕組みを行政との話し合いの中で作った。協働のシステムに乗ってやった所はそういう評価表はある。でもそれはこの課(地域のつながり推進課)と協働でやった場合だけでした。他の所でやっている協働では出来ているかどうかは分からない。
- ・仕組みの所で、動機づけ、意識づけをしないと。やって良かったよ、があるから、次にどうしようか生まれる。だからその部分がすごく大事。そこに向かっていくためのメンタリティーを作っていく部分をうまく出せていけると良いかなと思う。向かっていく気持ちは、良かったよという部分があ

るから出せるもの。

- ・市民協働精神、市民協働スピリットが大事。それがないと全部あっても隠れてしまう。そもそも市民協働がどうしても必要かという所にこれが必要である。
- ・NPOを育てるということでは、NPOを役所が育てるのはおこがましくないかなと思う。環境を作るのは行政の役割だけれど、役所が育てるというのは違うと思う。育てるとは、トップや上からの目線で育てるということになる。育つ環境を作っていく、情報提供や色々なテクニカル的な面で支援していくなど色んなことがある。行政しか分からない所もあるからそういう所は支援していく役割はある。
- ・育てることが役割ではない。育てるというのは、同じ分野の先駆者的な所と上手く繋がっていけるような環境を作る。そういうことの方がより具体的かなと思う。
- ・NPOの評価とは何なのかということでは、拘束されずに取り組める、すぐに動ける所、それから後は長いスパンでみられて、そこでの生活者や地域密着でみていける。行政はすぐに異動してしまうもの。行政にはそういう仕組みがある中で、一方では長いスパンで出来る人が居てくれれば、一つ一つ階段を上っていくようなつながりが出来れば良いと思う。
- ・NPOの皆さんは地を這うような地道な活動をしている。その地道な活動をきちんと評価していくような捉え方。評価をすることが良いことかどうか分からないが、こういう活動が評価される環境を作るのがある意味行政かなと思う。
- ・育てるというのがやはりおこがましい。
- ・実際にやるのは市民で行政はあくまでバックアップをしていくということ。
- ・直接市がお金を出さなくても、例えば他の部署を動かして草を刈ってもらうこともできる。他に色々な方法がある。
- ・昔は補助金が例に挙げられてたが、お金だけが支援ではない。技術支援もある。だから役所の他の組織を使ってやってもらうだけでも良い。直接お金を出してくれと言っているわけではない。そういう意味で先ほど言っていたメンタリティー、そこへ向かう気持ち、動機付けが大切。行動する気があれば、お金以外の面でも色々ある。
- ・横須賀で補助金の報告会をしています。お金も良いけど、これを広報に載せて欲しいとか、会議をする場所を優先的に使わせてほしいとか、そういう場所や技術や相談役になるコーディネータを紹介してくださいなど色々なニーズがある。でも行政側は何をやって良いか分からない所もある。NPOグループから要望を伝えることによって色々な支援があることが行政側に伝わる。そうすると行政もお金でなくて良いならこういう方法があるなど考えたり、教えることができたりする。
- ・それは情報交流なんだろうと思う。人材、団体、支援内容、ノウハウのマッチングだと思う。
- ・団体同士の交流が出来れば、自分たちで育っていける。
- ・鎌倉は市民意識が高いし、今育っている団体は大丈夫だと思う。
- ・市民が市民グループ育てるということになると サイレントマジョリティという関心を持たない市民というのがあって、市民が市民を育てる循環性を考えていかなければならない。それは防災の時に発揮される。皆が助け合わなければならない時に自分は知らないという市民がいては困る。皆

が皆の為に何が出来るかを皆が考えられると最高だと思う。

- 鎌倉では市民が市民を育てることが出来るのかというとそれは難しい。では公共公益の意志を持った市民とは何か、ということを考えないと。
- やる気のある団体はいつも社会に向けて開こう開こうとしている。トップランナーで行ける人や自らできる人は、それで良い。高齢でもういいと言っている人達に広げなくていいのかと思う。だから誰でもそれに参加できるような仕組みをつくらばいい。そしてそこに来た声はどれでも拾う。ある意味行政の公正平等に近いかもしれないけど、行政ではないので自分達の個性を前面に出して、サイレントマジョリティの声も拾っていくようにすれば。
- NPOにも苦情はいろんなものが来るが、行政のように一人一人を必ず対応しなければならないということはなく、NPOはある程度の説明で納得してもらうことも可能だと思う。NPOならではの取捨選択できると思う。
- 個人情報に対して過剰反応すぎ。町内会で空家リストを名簿にすると言えば最初は皆反対する。個人情報には当たりませんということをきちんと説明すると納得する。5千人以上のリストは引かかる。
- 子ども達の体験学習で、昔は顔写真も出せたけど、今は全て後ろ向きで子どもの表情は一切出せない。本当につまらない。写真の意味がない。
- 仕方がないと思うが皆何かに過剰反応する。写真などをHPに出すとどこかに流れていってどうやって使われるか分からない。子育て中の親は心配。
- NPOセンターに登録にくる団体でも連絡先も何も出さないようにという要望がある。当然届出はしているがHPなどに載せないでほしい。何の為に登録したのかな？というのはある。少なくともうちの団体ではこういうことをやっていると言いたいことはあるはずなのに。
- 継続性とか、後継者とか大事。それがないと自分達だけで終わってしまう。もっとこの活動を広げて長くやっていこうと思うと多くの人を取り込んでこないと今の人たちで終わってしまう。
- 町内会の活動でいうと勤めが終わって定年になってから町内会の活動をすればいいではないかという意見があるが、途中からだ絶対に入りにくい。他所の地区から引越してきて人がいきなり定年して町内会の活動に参加するのは難しい。こちらは誰でも参加できるようにと色々声はかけているが、一向に参加されない。やはりこういうことに興味を持って活動してる人でないと難しい。
- 今 900 世帯あるので3分の1の 300 世帯参加してくれたらいい。イベントをした時にこれくらい来ればよいかなと判断するときの目安です。
- 会の会員になった所で、会員の3割が出られれば良いと。
- 人、モノ、金の話は永遠のテーマ。いまだに議論をしているということはこういう議論の場がないということ。こうした議論をするからこれだけのアイデアが出てくる。それを具体的にしていくことが次のステップに向けていくことに繋がることで大事だと思う。人、モノ、金のテーマは変わらないけど、中身はすごく変わってきている。制度も変わり、テクノロジーも変わり、色んなものが変わっている中で分野を横断のテーマは本当の基盤の所なので、きちんと掘り下げて環境を整えていくことが、NPOを育てていくことに繋がるのかと思う。

- ・これだけ分野横断で出てくると見えてくるものがある。
- ・世代交代もリーダーとか調整役で動いてきた人が、次を育てることはすごく大事で、色んな団体に試行錯誤しながら、こうやって引き継いでいったよ、ということをやっていると 色んな団体がそれぞれの思いだとかをヒントにしてよりしっかりしたものになっていくのではないかと。それがNPOを育てることではないかと。

■ チーム2

- ・責任の所在は時代によって変わるので、この役割も変わることもある。
- ・項目をみていくと補助金、委託とかで括れないものもある。アイデアとしていろいろ出していった方が良いのかと思う。
- ・財源のファンドからいきます。寄付控除と使い道の見えやすさ。お金をどこに出すか？NPOでも市民でも納得できるのか？
- ・一番確立しているのは、国際NGOに対する評価基準があって、国際的な評価基準がある。それをクリアしている団体だけを集めている組織もある。いくつかはあるが、評価は15年くらい前にかなり流行したが、あまり有効な評価基準がないので今は廃れてしまった。だから改めて一般の人が寄付しやすいのでこれがあるのかもしれない。
- ・これは国が中心になってですか？→民間が中心です。許認可と同じです。
- ・相対的にどちらがリーダーシップを取るかということですね。
- ・国の傘下にあるところだけの評価してしまうのでそれを絶対に避けるのがNPOの主旨。基本的にこれをやるとしたら、民間でやること。
- ・役所がやると議会の動きが大きくなってしまう。行政がすると評価基準のハードルが高くなざるを得ない懸念がある。
- ・平塚市では、公益信託がやっていて審査員は民間の人たちだという仕組み中にはある。
- ・銀行は信頼度が高い。例えば鎌倉にある何とか会という金融機関の集まりがあるが、そういう所でプロボノのような昇華制度はないのだろうか？それは面白い案だが、銀行の場合は投資というより融資となる。融資、返済、メリット、その後の資金の流れなど5つくらいのプロセスを判断する。
- ・この中では一番揉める。NPOは絶対お金が足りないと思う。お金がどこでも一番揉める。お金が厳しいところが多い。
- ・その辺りも大きな問題もあってNPOはお金がないと言っているが、例えば1千万あげます何に使いますか？と聞くとすぐに答えが出ない。そうすると銀行などからは批判される所。企業家はいつもお金のことを考えているから、そういうことを聞くとすぐに答えられる。でもNPOはなかなか答えられない。
- ・NPOセンターで今5万円出しているが、それをもっと良い方法がないかと思う。もったいないと思う。
- ・信金はソーシャル融資をやっている。
- ・NPOも儲けてはいけないというもおかしい。儲けても良い。でもイメージとしてNPOは儲けては

いけないというものが何故かある。それは可哀相。

- 団体をしていても、稼いでいかなければ回らないが、仲間間の意識でも躓いてしまう。大金を動かすことに罪悪感から始まり、怖いなど、リスクばかりで、どうしていきたいという所になかなか考えが及ばない。成熟する前に頓挫してしまっているのが実情ではないのかと今すごく実感している。だからそういった所を支えてくれるような、育てる部分を担ってくれるところがあると良いと思っている。
- アメリカのボランティアは、お金をもらって当然と思っている所もある。
- ガーディアンエンジェルスは企業からの融資がある。私たちは基本的にボランティアですということからスタートした。そうすると完璧にタダだろうと思われている。タダで来てくれる警備員と間違ったイメージで思われているので、最近間違ったイメージを変えるよう努力はしている。
- NPOでもお金が必要な所とそれほど必要でない所があるんですよね？
- お金があまり欲しくないというところもある。結果的にはお金の管理が怖いとか、
- もう一度フィードバックしてお金の必要な所や、仲間に戻して使ってもらえるような預け意識ができるかと負担感は軽くなるのではないかと思う。
- 色んなお金の使い道があっても良いと思う。もらったら終わりではなくて、一旦どこかに預けるみたいなことは出来ないのかと思う。
- 後日請求性の方が良い。最初にお金をもらうより、これだけ掛かったからくださいという方が良い。
- 助成金とか支援金とかをもらうのが怖いのは、後々のことを考えてしまうという所もあるのではないかと思う。入口のハードルを低くしてあげるようなところがあると良いかもしれない。
- 今自分が感じてることだが、補助金をもらおうとすると、来年の4月に何かをすることとして、実際にお金が入るは6月になる。どうやってやるんだという話になる。
- 何もやっていない団体に対して融資や補助がでるわけもなく、足りない部分のお金をだそうという感じには受け取れない。年度で区切って予算を出しているのは当然理解できるが、何とかその辺りを緩やかにできないかと思う。
- 来年度やろうとするならその前後2年間は緩やかにする会計年度の予算に関してできないかと思う。そういう風にしなければ育つものも育たない。どうしたら良いのだろうと考える。実績があればそこを評価してもらえれば良いと思うが、始める前の人が何をどうすれば良いのか、そもそもできませんよ。本当に苦しい。
- それくらいきちんとしていなければならないと思うが、やる気を育てるという所をもう少し考えてもらえたらと思う。
- 市が直接その団体に出すとなると単年度予算にならないといけないと思うが、こういうファンドとかを仲介すればクリアはできる。繋ぎ融資というのがある。
- 市民ファンドでそういう繋ぎをしている所は結構ある。繋ぎ融資だとほとんど取りっぱぐれがないから、喜んで貸してくれる。
- 市民ファンドの融資はほとんど繋ぎ融資だと言いますね。
- NPOからすると補助金はすごく使いづらい。使途が限定されていたりするから。本当はもっと寄付

が増えるといい。必要な人に必要なお金が集まるといい。

- ・寄付金というキーワードが出たので次のふるさと納税や寄付型自動販売機についてに入ります。
- ・クラウドファンディングの話も良いのではないかな。
- ・リスクを背負いきれないというコメントが。
- ・支援するファンドはたくさんあった方が良いのですか？どこかに集めてしまう方が良いのですか？
→いっぱいあった方が良いと思う。そしてこの場合はこちら、この場合はこちらという風にできれば良いと思う。
- ・社協の場合、日赤が助成金とか、共同募金などがあるが、ほんとに地域でやっている人の助成金があると良い。色々があるが知らない人もいる。だからどこかで分かっている人が、例えば福祉関係ならば誰さんの所に行ってください と言えるといい。
- ・中間支援組織というのは、社協みたいなところを言うのですか？社協は今、かなり福祉系の中間支援組織っぽくなっている。NPOセンターもそうです。
- ・そういうのはあるけど、やっぱりこれは必要ということ。今まででは少し不十分だということがある。
- ・NPO版のベンチャーキャピタルがあっても良い。ベンチャーキャピタルは、最初の 2、3 年は補助してくれて後は自分でやりなさいということですか？
- ・ベンチャーキャピタルでなくともこれは銀行でもやっている。NPO向けにやっている。
- ・うちの団体も新聞に取り上げてもらった時に銀行から電話があってお金を出しますよと言われました。融資ではなくて、お金をくれます。銀行はそういうのをやらなくてはいけないことになっている。うちは必要なかったんで断りましたが。宝くじでもある。銀行とか、トヨタとか、ソフトバンクとかもやっている。皆結構やっているが、そういう情報が行き渡っていない現状がある。
- ・情報を一覧表にしたらどうか？←一覧表はすでにある。助成財団が 30 年くらい前からあって 3000 件くらい出している。ただこういう場合はこれに出しやすいとか、それは生の声でないと分からない。振り分けるのが難しい。助成財団は宝くじ並みに倍率が高い。普通に行ったらダメだとか、色々分かってないと難しい。
- ・一度NPOセンターの人に勧められて街づくり何とかという国土交通省がやっているもので 100 万円もらえるからということで応募した。入賞はしたけどぎりぎりお金はもらえなかった。でも今度は寄付金に関する郵便がどんどんくるようになった。雑誌には乗りましたが。それは割と取りやすかった。←そういうのは取った人、経験した人しか分からない。その辺のスキルや私はこうやって取りましたという情報があると良い。
- ・そういうことを考えると鎌倉市のスタートアップ事業、地域立上げ事業 100 万円はもったいないと思う。立ち上げるだけでいいでしょ。ハードルが低いからちょっともったいない。
- ・行政のスタートアップ事業を民間の目から見て改革をすると書いても良いのではないかな。
- ・もったいないというのは、育っていないということですか？←育っているのか、育っていないのかさえも分からない。もらった方が良いと口コミで広がっている。
- ・これは返金しなくても良いお金。融資ではないので。
- ・定期的な報告や調査はあると思う。銀行の目からすると……。でも銀行からの目も大事。

- ・NPOは他のNPO、他の団体との連携が少し薄いように感じているが、実際は違うかもしれないが、そういう壁は、違う団体の方が、例えば老人クラブとかは継続的に補助金をもらっているから、そこ連携しようとしたら、老人クラブはお金があるのに、NPOは最初の2、3年は補助金等で出来てもその後はお金がなければできなくなり、そこの連携は潰れてしまう。連携をあきらめなければいけない、他の方法を考えなければいけないというのも何か問題があるのではないかと思う。そういうことってあまりないですか？連携というのは相手方の事情もあるから。でも自治会とかと連携しているのはあまり聞かない。自治会には補助金がある。
- ・自治会とうまくやっているNPOもあるが、涙ぐましい努力をしている。
- ・その自治会主催のお祭りに行って、チークダンスまで踊ったとかそういう努力もしている。社協にもボラ協というのがあり、ボランティアセンターが5人以上で成っている。そこに入る約束事では鎌倉で福祉祭りに協力することなど。
- ・活動される方は自分たちの活動が一番崇高だと思っているし、集中して活動をしている、それは立派なことだけど、連携という意味ではない。
- ・上手くやっている団体にはやはり地域担当もいる。その人はまるで地域の嫁のように働いている。必要だからやっているのか、やむおえずやっているのか？←必要だからやっているのだと思うが、話を聞いてるとそこまでやるのかと思った。
- ・③人材について、にいきます。“人材”というくくりで話していきましょう。
- ・プロボノという制度自体は、NPOが作ってもいいし、NPO支援センターがコーディネートしてもいいと思う。
- ・専門アドバイザー派遣については、NPO支援センターの方が相談する側からしても安心感がある。税理士、社労士も直接NPOが接触するのも良いがNPO支援センターが紹介してくれる方が安心する。
- ・参加しやすい仕組みもどこがやるというのではなくて、活動を通してならばNPOだったり、市民活動グループがやっていくと思う。
- ・市民がどういう風に取り組んでいくのかについての説明だったり、手法だったり、行政がシンポジウムのようなことをやっていくということもあるだろう。
- ・今回の条例のようなことは大事だろうけど、その先の一步を作っていくことが大事。条例だけ出来たでそのままになるのが怖い。
- ・どこに行っても同じような顔ぶればかりではという話も出ていたが、参加したことのない人をこれからどう巻き込んでいくのか、これもどうしたら良いだろうか？と思う。
- ・色んな所に顔みたいな人が必要だと思う。今地域のつながり推進課には課長がいます。支所にも地域のつながり推進課の人はいるが、実際には？でいっぱい。例えば街づくりであればこの人がいるとか、地域のつながり推進課に行けばこの人がいるとか、カリスマを作ってその人が色々と紹介が出来ればと思う。行政は3年に1回くらいで異動になる。例えばその人が次にどこに行くかは分からないが、そこでまたカリスマになれるのではないかな。←その分野のカリスマになればいいということですか？組織で何とか課長と作るよりも人を作って、課長や部長が邪魔をしない。私

は組織と付き合う時には人で付き合う。

- ・役所の中の人材でいうと、事務の幅があまりにも広すぎて、違う部署に異動すると業務が全く違ってしまふ。そうすると一からの勉強になってしまふ。例えば自分が希望する3分野くらいをエントリーしておいてその3分野くらいのプロになるという意識を役所組織として持っておく。人員の配置が違う所もあるでしょうが、長い目でみるとその3分野が持てるような仕組みになるといつも変わってしまつてということは無くなるのではないかと思う。また何年かしたら、戻ってきてくれたのね ということになれる仕組みだったらいいのではないかと個人的には思う。
- ・行政内にプロを育てる。支えなくてもいいからこれを邪魔しないこと。私が思うに部長の中の評価に入れてしまえば良いと思う。地域のつながりみたいな項目を査定項目に加えるとか。部長の評価項目に入れると、課長、係長と下りてくるので。
- ・昔、市町村によってはそういう所がありました。外(地域)に出ていきなさいという所。今は忙しいから出ていけない。再任用職員がそういうことを担えば良いと思う。でも再任用の人には権限がない。元課長、元部長クラスになると権限がなくとも重みがある。色々な経験があるので、こういう問題を抱えていたらどこに行けば良いというアドバイスは出来ると思う。だからそういう人が言つてることをきちんと受け止める制度がないといけない。それは制度化しないといけない。
- ・民間でも再雇用した人を高く評価していて、スキルを活かそうという流れがある。
- ・再雇用の方はあまり面白い仕事をさせてもらえない。今まで権限を持っていた人がそれがなくなるとつまらなくなる。だったら経験を活かせるような所で使つてあげる。再雇用を活用する仕組みを作る。
- ・私も 60 歳以上の部下がいっぱいいる。そういう方は知識が豊富。銀行でも知識があるので辞めさせてしまつてもったいない。60、65 歳になつてもう働きたくないって人もいる。でも皆さんお元気ですから。
- ・金、人、情報 というのは、信用がおける組織が管理すべきだとすごく感じる。
- ・信用があるというのは、今思われる所ではどこですか？←行政です。というのは個人情報もあるし、信用がおけるというのは行政が信用がおける組織。
- ・行政は信用できます？どうしてそう思われるのか？←一般的に 金、人、情報は漏えいしたり、大きなリスクを含んでいることがあるので、ある程度は行政とか中間組織が握っていた方が良いのかなと思う。
- ・これを役所の組織で言い換えると金は財政、人は人事、情報は企画。今は違うかも知れませんが昔はそうでした。
- ・この辺を管理しようとする管理するための仕組みが必要になる。行政が時代の波に追いついたシステムを作りきれないのではないかと思う。
- ・実際市民の方は、こういう所をNPOに任せて大丈夫なのか？と思つているかもしれない。それは私たちのこの会議の出発点かもしれませんが。
- ・そこを打破するのが非常に重要かと思う。その辺りは昔行政は間違わないとよく言いましたが、そんな組織は有り得ない。間違つてもいいような社会を創りたいというのはある。大きな問題や犯罪

はまずいと思うけど、失敗を許せる社会というのが根底にあるような気がする。でないとチャレンジする人がいない。そのために議会があるのでしょ。でも今それがうまく機能していない。

- ・若い世代がこれからやっていこうと思うのだろうけど、子供たちがあつと言う間に大きくなるし、若者が集まる場とか、魅力的な場所を作っていくことも必要。それは当事者である若者を入れて、何年もやってきてノウハウのある人と一緒にやっていくというのも仕組みに必要だと思う。やっただけで大変というのでは、やりがいもないので、やった人にもメリットがあるという仕組み作りが必要。
- ・若い世代を育てるということも新しい事業として受け入れられる仕組みも作っていかないと、若い声をすくいあげようということには鎌倉は特になりづらい。
- ・子ども達をきちんと育てないと鎌倉の将来はないのにいつも子ども達は一番最後。
- ・ダメになった子どもがいる、学校に行けない子どもがいるとなつてやっとなし腰を上げる。そうではなくもっと健全に育てる所をやっていかなければならない。
- ・若い世代と一緒にその団体にいるというだけでも色々なことを覚え学ぶので必要。
- ・仕組みが評価されるところまでいかないと育っていかないとと思う。
- ・小学校、中学校でボランティアをしているが、それをNPOを通じてやっていたりしますか？
- ・ボランティア体験があると思うので、一番分かりやすいのは施設体験ですが、もう少しソフト的に。
- ・学校のカリキュラムには入っているが、地域性、学校性によって入っていない入っていないところもある。
- ・小中学校は地域の学区があるのでその地域のNPOと連携するというのは出来るかなと。風致保存会はあの辺りの小学生がまびきを体験したりしているので、それぞれの地域で地元で根付いた地域活動という中に子どもを巻き込めたら、若い人の目を育てやすいのかなと思う。
- ・小さい時はその体験で良いと思うが、大学生になると企業に行つて、企業の担当者と色々企画をして立案までするという仕組みがあるので、それを高校生の時にそれが単位として、立案してプレゼンして取るとするくらいにならないと、人はなかなか動かない。今ボランティア活動は内申請に書かれる。でも明確ではない。
- ・市内の高校にも行ってやったけれど、実際には勉強が忙しくてそれどころではないという状態だった。
- ・誰かの役に立つとか、地域の役に立つという意識付けをしないと長い目で関わってくれないのではないかなと思う。大学受験のためというとな大学受験が終わったら、活動も終わってしまう。根底の所で必要。でも入ってもいないから分からない、入ってみて良さが分かるのではないかなと思う。だからそういうのを出来るだけ小さい時から触れ合う機会、身近になるような機会が必要なのではないか。いくら若い人が参加しやすい仕組みといっても、発意がないと落ち着かないと思う。
- ・若者の意見として→身近な人だと、1回やって、楽しかったねで終わる人が圧倒的に多い。良いことをやったと言いまくる割に1回で終わり。そういう人もかなり多い。それで最初は楽しいと思つていても深い所が見えたと一期に引いていく人もかなり多い。私の場合は元々そういうのが好きで自分から入っていったから続いている。それ以上出来ないと言う人の方がすごく多い。
- ・何故好きで続けられるの？そこかポイントになるのではないかなと思う。→私は小さい頃から自然のこと

が好きでした。人が苦手で植物とか動物の方へいった。環境のことはとても大事なことで大学生になった時に市民活動にいくようになり、人と関わるようになった。色んな人と関わるようになり、良いなと思ったのが今まで続いた。続く理由は好きだからというもので終わってしまうけれど、何で好きかという小さい頃から好きだった。海水浴らしい海水浴は一度も行ったことがない。ふつうにキャンプも行ったことがない。でもこれまでに続けているのは小さい頃から図鑑とか見てたからということ。今北鎌倉の里山でも子ども達が普通に来て活動したりする。その子たちにも今の経験はずっと残るのではないかと感じている。相模原でも先輩が小学生から見ていた子が中学生になり、今でもふらっと来てくれる子もいたりするので、小さい頃からの経験はやはり残るのではないかなと思う。

- ・若い世代は皆さんが思っているよりめっちゃくちゃ忙しいと思う。高校生も大学生も。バイトをしないと飲み会とか行けない状況。地域のお祭りとかで小さい頃から参加してて若者衆になったりと昔はあったのかもしれない。今でも鎌倉の場合はある。鎌倉は今でも残ってますか？地域によっては残ってます。
- ・若い人は最初にやる場を与えてあげるとやるのではないですか？311 や熊本へ行ってもほとんど若い人でしたよ。高校生や大学生でした。やりたい気持ち志は持っている。それが継続していく仕組みを持っているかどうかということ？
- ・継続を求めるかどうかは、若い人たちは勉強したり、受験があつたりもするので、継続というよりその時々に関与を与えてあげると、ちょっと参加してみる、ということができるのではないかなと思う。参加したいという気持ちさえ持っていれば良いのかなとも思う。
- ・実際今働いていてぎりぎりの所で続けているが、60 歳まではボランティアは本当に厳しいと思う。働いたり、家族を養わなければならぬとか、勉強したりとかでなかなかできない。そうするといつも場を与える、提供できるようなシステムがあれば単発でも出来ればよいのかなと思う。
- ・福祉でいうと、中学校では遅いと言われている。幼稚園、保育園くらいから経験させるとどこかに残っていて、定年退職したり、どこかでそういう機会があると参加できると思う。
- ・常総市が鬼怒川が決壊した時に行ったらほとんどが大学生だった。すごく暑い時に立派だなと思った。
- ・だから日本人として当然ですと言っていたので、やはり場を与えてあげると今の日本人はやるのではないかなと思う。
- ・あまり継続性に重きをおかなくてもいいのではないかなと思う。10 人中1人でもやる人が居てくれれば。継続より断続なのかもしれない。出来るタイミングです。
- ・でも人が変わってずっと続いていてもいいのではないかな。
- ・私がやってる活動も人が代々変わりながら 20 年続いている。プラットホームみたいなものがあって、参加して、人が変わるけれど続けていく。きっと居心地の良い組織ですね。
- ・京都の大学に行っているが、リクルートの人が助成金を取ってきてくれて学生に素泊まりだけの宿を提供する事業をやり、自転車が多く氾濫していて大変だということと貸自転車事業を始めてみたり、そういったことを仕掛けて学生と一緒にやっている。最初は学生もただ手伝っていただけだが、

学生からそのうちこういうこともやってみたいというアイデアが色々出てきた。今とても楽しくやっている。

- ・最初はちょっとした興味だったり、せっかく京都にいるのだから何か京都らしいことをしてみたいということだったのが、いつの間にか市民活動にどっぷりとハマっていて、就職活動の時も縦の関係が出来ているので相談に乗ってもらっている。傍からみてとても理想的だと思った。いつのまにか市民活動の人材が育ち、土壌ができて、育った若者が企業へ就職して市民活動感覚をもって企業マンとしてやっていけるのは、すごく良いなと思う。
- ・そういったことも鎌倉で出来たらすごく素敵だと思う。
- ・京都は若者が活躍できる場がすごくあると思う。京都はNPOセンター、中間支援組織の仲がすごくいい。仕事も忙しいとお金も含めて手伝い合える。そういうことができるのですごく良いと思う。
- ・京都は阪神淡路大震災がきっかけでそういうことが広がった。
- ・大学生を上手く活用し、またすごくやった感を持っている。中心メンバーもすごく若いので若い人が引き付けられる。
- ・人材の中にはNPOで専属的にする人材と、ちょっとお手伝いをする副業的にする人材がごちゃ混ぜになっているのかもしれない。
- ・どちらを本当に求めるべきかを考えた方が良い。
- ・色んな参加の仕方があるので、どちらを求めていますかというのが違うかもしれない。
- ・プラットフォームを作っていくにはNPO専属の人材が必要。そこでコーディネータを育てていかないとお手伝いの人が集まっても導いていけない。
- ・だからやはりNPO専属の人材を求めていると思う。若い人は企業にいきたいだろうから、そこを引っ張ってくる必要がある。
- ・プロボノの支援体制として自治会も含めて良いのかなと思う。
- ・市役所はどこかで情報発信しているのですか？NPOセンターがしているかな・・・？ 鎌倉市のNPOセンターはほとんど何もしていない。
- ・でも今情報発信は団体各自がやっている。その情報をどうやって集めるか。
- ・情報の絶対量が足りないのか？スタッフに知識もなければITスキルがないので、今のNPOセンターでは役に立たない。
- ・NPOセンターのHPをこの検討会が始まって初めて見たが結構挙がっていると思ったが、実際に活動している人からすると足りないですか。
- ・聞いてもこたえられない。情報はあるけど、コーディネート機能がうまく機能していない、どう使って良いのか分からない。
- ・鎌倉の本質的な悩みで高齢化、NPOセンターにもその波は打ち寄せている。
- ・行政が立ち入って交通整理をしていく必要があるのかもしれない。
- ・NPOセンターはコピーが安くて、会議室が無料で借りられるという利用しかない。
- ・若い人を取り込もうとしたら平日は無理。生活していかなければならないから働かなければならず、土日のお手伝いくらいしかできない。

- でも1千万円あれば人を2人雇える。NPO専属を育てていくのであればNPO自身がすべきことだと思う。
- NPOセンターと社協が一緒になってしっかりした管理の下でした方が良いかもしれない。
- 2か所あったNPOセンターが統合して一つになる。
- 信頼できるNPOから一人ずつ選んで運営するということにすれば平等で良いと思う。最初はそうだった。
- NPOは作られた時の人がそのまま上に上がっていった新しい人が入れないようになってきた。
- 社協で指定管理を提案して受けているものがあります、条例で利用者の制限があり鎌倉市民で60歳以上で9~17時まで、予算は指定管理の範囲内でやってくださいと決まっている。こういう中でどういう風に子育て世代と交流を図るのだろうと思う。提案は色々しているが、本当に出来ますか？と思う。指定管理料で余らせると次の年度には減らされてしまう。だからあまり新しいこともできない。
- だからやっぱり仕組み作りは大事だと思う。若い人と高齢者の交流は必要。
- 年齢は関係ないですか→高齢者施設なので60歳以上です。
- 役所から補助を受けると50年間、30年間は違う目的で使ってはいけないとなっている。違う目的は目的外使用許可を得なければならない。
- でも今はそうではなく、こうやって世代交流を進めたいというのであれば条例そのものを変えていかなければならない。
- 個別の条例を改正するのは大変だから、この条例で特例を作ってしまうが良い。
- 例えば、公の施設は交流の為の制度、事業を取り入れなければならない。国庫補助の規制はあるが、それは市長に頑張ってもらるか、抜け道でやってもらう。←それはすごい。そしたら風通しが良くなる。
- 私たちが協働から指定管理にしたのは、そういうのを取っ払いたいというのがある。あなたたちが指定管理になったら好きにやって良いですよ。と言われた。
- そういう所が足かせになっているから、指定管理にしたら自由に出来るでしょ。ということからでした。
- 子どもの立場を考えると待機児童対策だから、1平米でも増やしたい所でしょう。
- そういう中でお互いに世代間交流できるようなこと、確保出来る面積を譲り合わなければならない。あと時間を開放しなければならない。そういうのは絶対ネックになってくる。その時は智慧だと思う。
- 今は智慧を出せるような状況にもなっていない。
- 老人センター等に子育ての会の方が行って使わせてくださいと言うと所長はそんなこと急に言われてもねと言いますよ。そうならないような仕組みが必要。所長権限だけでは限度があるので、執行を変えなければならない。そのための仕組みを作っていかなければ動けないと思う。これが仕事であるというふうに持っていないと動けないと思う。行政は仕事でないと動かないですから。
- これは良いですね。でも今はまだ入れないですよ。←今老人センターは夏休みとかにお祭りをやって交流を深めます。いわば平常の時間ではなく、夏休みや日曜日にやりますという施設が

ほとんどです。←これはもうやっているのですか？←27年度から運用中です。でも施設によってはどこかの子育ての会などが使わせてくれた時にどこを使えば良いのだろう？うちの施設にはないねで終わってしまう所もある。そういう所は夏休み中だけするようにしている。

- ・子ども会館も子どもを連れている大人でないと入れない。例えば地域の老人だけで行っても入れない。世代交流をしてくださいと言いながら変な話です。
- ・親しか入れないとか、おじいちゃんが来ると本当におじいちゃんですか？と言われる。こういうことはその館長さんの判断で決まっている部分はあるので、そこを緩めてあげると良いと思う。今は緩められる制度になっていない。
- ・縦割りを横繋ぎするような制度を全体的に作りたいと思う。
- ・子どもに関して言うと、安全面が保護者には心配。確かに地域の人には開放したいけど、その人が本当に地域の人かどうか分からない時が往々にしてある。
- ・そういう所の確保が一方で必要なのではないかなと思う。
- ・イベント前などは、保護者かどうかなどの確認はその会の方々が担っていく、私たちは顔写真を掲げるとか、こういう人です。ということを利用者に見せることによって安心してもらう。でもそういう対策は個々で出来ると思う。
- ・仕組みに入るかも知れませんが、鹿児島市は校区交換制度というのがある。
- ・学校の中に公民館がある。必ずそういう風になっている。そこにお年寄りが必ず活動をしていて、小学校の中を見守りしながら、交流も深められるようになっている。鹿児島市はボランティアの数がすごく多い。昔の島津の郷中教育がそのままずっと引き継がれている。お年寄りと子どもが上手く交流出来れば、地域力がどんどん強くなる。安全強化にもなる。都道府県庁がある町で鹿児島は犯罪件数が断トツに少ない。
- ・安全安心は子どもにとってはとても必要で大事。そのハードルを下げるのであれば、老人クラブなどのAさん、Bさんと言ったように顔が見えてると良いわけだから、まずはAさん、Bさんから始めてはどうですか？と思う。
- ・誰でも良いですよ、となると役所はなかなか出来ない。
- ・顔が見える関係を作っていくということ。或いは団体ごとにそういう人がいないときっと分からなくなってしまうと思う。
- ・議会の批判もあるだろうけど、議会の中でもそういう顔となる人を作れば良い。
- ・NPOでももう少し動ける人、職員の中でも動ける人を作れば良い。
- ・仕組みになるが、郷中教育。学校の中に公民館がある。←子供が減った教室を利用しているのですか？←公民館という建物がある。鹿児島の小学校には門とか塀がない。誰でも出入りできるようになっている。自治会館を必ず小学校の中に作るようになっている。おじいちゃんおばあちゃんが必ず小学校に行く。自分の孫や地域の子どもがいて遊びに来たりするから、一つの場が出来ている。
- ・だから鹿児島には暴走族とかがない。
- ・コミュニティハウスもそうですね。←あれをもっときめ細かく特化している。郷中教育は鹿児島の島

津氏が作った教育で、今もずっと続いている。だから鹿児島には西郷や大久保が育ったと言われている。おじいちゃんが子どもを育てていったという。地域が必ず子どもを育てるという考えがある。

- ・私は防犯の観点から郷中教育を鹿児島の市役所まで聞きに行って、視察をして松尾市長にも意見書を送ったことがある。
- ・小学校の空いている所を地域の活動ルームに開放する所はある。←それはすごく良い事だと思う。鎌倉はなかなかないですね。横浜はある。そこで活動している人達がしょっちゅう子ども達とそこで顔を合すから、中学生になってもそこに行く子がいる。
- ・池田小学校の事件以来、学校の門は閉じられて入れない。
- ・鎌倉市の小学校は全て警備員が立っているという全国で唯一の市です。予算がもったいない話ですが、それが良いのか、鹿児島のように塀も門もない誰でも入れるようにするのが良いのか。鹿児島は犯罪が起こっていないという実例はある。
- ・どちらが良いのか……。閉じるより開ける方がよいと思う。
- ・大阪の小学校の事件でやはり閉じなければいけないと、不審者が入って来たときの問題も考えなければいけないが、一方で開けてあげて、横浜のようにきちんと地域で見守り、そういう所を使ってやるのはすごく良いと思う。
- ・知らない人がいなくなれば、良いと思う。それが一番良い。
- ・私たちが子どもの頃は、小学校はいくらでも行ってサッカーや野球ができた。
- ・逆に早く帰れと叱られたくらい。
- ・警備員を立たせるというのは、いったい市民のどれくらいの人々が求めているのですか？←実はお金も掛かるし止めようということで、もっと柔らかな警備に変えたいと意見が出た。それをPTAに提案したら猛反対でした。だから市民は今ある警備を止めるというリスクを取りたくない。だから過剰サービスは絶対にやってはいけない。
- ・コミハ(コミュニティハウス)にいる人達は自発的にやっている学校もある。
- ・学校脇に小さいプレハブやテントでも作ってお年寄りに8:30~16:00までここで立っていてくれませんか？と言えはやるのではないかな。
- ・今教室はいくらでも空いているから、そこを使って交代で見回るのも良いと思う。
- ・鎌倉にも導入できたら良いと思う。
- ・ただNPOをやりませんか と勧めてもなかなかやらないが、そういう地域で何かをしているという場があり、小さい頃から慣れ親しんでいることが将来、地域の活動をしてみようという気持ちを育てると思う。
- ・公の施設だけで交流というのはあまりピンとこない。
- ・場を如何に持つかが大切。例えば災害があったら、地域で子ども達を守るとかそういう使命感を呼び起こすようにしてあげると若い世代も入ってきやすい。
- ・他にも緑を守りたいとか、鎌倉はどこをみても緑が綺麗だから、そういうのも若い人達の心をくすぐるのではないかなと思う。

- NPOというのは、一つの間であって、ツールではない。その先にある目的を達成するための法人格であったりする。
- NPOセンターの最低機能が何なのかをもう一度きちんと知りたい。
- 機能するためには最低でもどういったものが必要なのか。
- 知り合いが民泊を始めてNPOセンターに相談に行ったら、ちょっとイマイチだった。内部の紛争に巻き込まれそうになっらしい。
- コーディネート機能が必要。場所は他でも良い。
- 印刷機はあった方が良い。それがメインではないけどあった方が良い。
- コーディネートが出来る為にはどういう能力が必要かという何でしょう？
- 顔となる人、情報、色んな情報を組み合わせて指示してあげられる人。
- 例えばこういうことをするのであれば、この自治会長の所へ行きなさいなど。
- ボランティアコーディネート研修では、すごく面白い相談窓口をやっている人は、最初は分からなくても相談に来た人を絶対に断らない。やっているうちにノウハウが身に付く。だからその人にやる気さえあれば良いと思う。
- 社協でも同じことが言われる。絶対に相談に来た人を断らない。出来るかどうかは別だが、相談は受ける。
- 目標を設定して協働を始めるが、出来たかどうかの検証はしているようで全くしていない。出来ても出来なくても、ダメな時はそのまま継続できない。結局お金の問題。利用者の思いや検証は一度もなされていない。
- 本当は子どもが、親御さんがどう思うかが一番大事なのに、ここは市の財政や議会の意向とかで決まってしまう。誰のためにやるかという目標設定と検証が一番大事なのだと思う。こうして頂きたい、これでダメなら仕方ない。
- NPOセンターもそうですが、ダメなら止めるべき。でも良いのに止めるのはおかしい。
- 横浜のある団体は、協働協定もやっているが、そこは自分達で始めて、行政から補助金が付いて拠点を運営するようになった。その時にすごく悩んでどういう形で受けようかという時に、目標設定でズレていくと後でえらいことになるからと言って、この施設は何を目指すのか、目指すことについての議論にすごく時間を掛けた。だから目指す姿がはっきりしているので、それで年度末には必ず検証をする。本当は施設ごとに目指す姿、何のためにやるのかということがあって、それできちんと評価もすべきだと思う。でも今なかなかそういうことが出来ていない。←鎌倉でもそれ（目標設定）は書かされるが検証がされない。利用者にも聞いていない。やっぱり最初に議論をしていくことが大事。←議論も2年間かけてやった。←評価の仕方もその議論の中でやった方が良かった。
- NPOセンターに専門スタッフを入れてというレベルの高いことをいうより、公募制とかでも良いのかと思った。専門スタッフを置きたいと言った時に公募で手を挙げてもらって、それを先ほどのお話しにあった協議会のような所で、実際にNPOセンターを使う人たちにとってどのような人が良いかを検討してもらおう。

- ・専門家はプロボノでも良いと思う。ただスタッフは相談を受けるという人がきちんと在中していて、その人がある程度専門家を知っていて専門家、又は協議会に頼む。前にもNPOを理解していない専門家を用意しても役に立たないという意見があった。

■ チーム1発表

ワークの役割とか支援対象についてはあまり話していなくて、各項目の中身について意見交換しました。毎回内容としては同じで、NPOを育てる、お金のことです。NPOを育てるについて、役所が育てるのは少しニュアンスが違って、役所としては育つ土壌を作る、育つ環境を作ること。育つのはNPO自身が頑張ること。

それはそうだなと思った。全体的には 20 年前にも同じ話をしていたと。そこが変わっていないということ。そのことでマインドの話を市役所の話でいうと課を横断してプロジェクトをすることにおいて、メンタリティーを育てていかないと、おそらく 20 年後も同じ内容の話をしていくことになると思います。

マインドを育てていくということが大事だと私も思いました。

仕組みより市役所の人々のマインドが大切でNPOもそれぞれのマインドをもう少し変えられるような土壌を作っていくことが大切であるという話でした。



①市民協働の動機づけ

- やって良かった次にいこう(テクニックに加えメンタリティをつくっていくことも大切)

②財源

- 予算と協働の仕組みの見直し
- 市の予算の中で NPO の枠を作る
- 何に使うか明確にする

- ・＜ふるさと納税による寄付について＞
 - ふるさと納税はたよりにならない？
 - お金だけでない行政の支援もあるはず

③人材

- ・＜人材バンクについて＞
 - 知識はあるがリーダー性があるかな？
 - コーディネート力のある人を探そう
 - 役割分担の可能性は高い町？
 - リーダーとプライド
 - 人材管理も NPO や市民にできれば。
 - (↑課題問題点として)
 - つながりを持ちたくない団体もあるのかも
 - 議会は市民代表か行政と対立が多すぎる
- ・＜人材・団体のマッチング機能(支援内容・ノウハウ)＞
 - NPO グループの分類分け人材の分類分け
- ・＜若い世代が参加しやすい仕組みについて＞
 - 若者は勝手にやっている。若い人だけで固まっているとも。
 - 世代間交流の大切さも
 - (↑課題問題点として)
 - 大学の機能がない

④場

- ・＜議論の場として＞
 - 井戸端会議出来る場所
 - 町の未来を気軽に語れるカタリ場を(ウラ駅の飲み屋的な場所)
- ・＜場と人について＞
 - 行政との距離が近いことのメリット
 - NPO センターと市担当が同じ所に居る逗子や茅ヶ崎は便利。
 - NPO センターと市職員が少し離れているよさもあるという説も
 - 支所に一人ずつでも地域の市民で意見番をおく
- ・＜NPO センター機能について＞
 - 広いスペースで団体同士の交流。
 - 団体数が増えた今、現 NPO センターは狭い
 - 社教、福祉センターを使っているが使えない所もある

⑤情報

- ・＜市民活動実績データベースの構築について＞
 - 活動評価表のようなものがあれば良い

- ・＜委託実績の公表制度について＞
 - 協働でやりたいことを相談する最初の窓口
 - 相談シートに書き込み投函
- ・＜提案、相談等の公表制度について＞
 - 他市町村の専門家にもつなげてほしい
- ・＜オープンデータの整備について＞
 - NPO 独自の会計ソフトがあればいい
 - 各課ごとの仕事リストの公表
 - 個人情報の過剰反応しすぎ。(空家リスト、町内会名簿など)
- ・＜支援情報の広報強化＞
 - NPO 育成に役立つ情報

⑥仕組み

- ・役所は育てる環境を作るのが仕事で育てるのはおこがましい。育てる人は市民。
- ・市民、NPO は不動。長いスパンで地元を見れる。行政にはできないこと。
- ・計画の長期的、中期計画(半年度)
- ・＜行政参入支援講座について＞
 - NPO を育てる講座(アドバイス制度ということ)
 - NPO で会計技術のトレーニングを
- ・＜市民活動相談窓口の設置について＞
 - このリストの中に市民にできることはないか。バイドなど
 - 地元の NPO がやった方が仕事は多い
 - 逗子など小さい村だからできることもある
 - 横須賀市では企画調整が市民部かで後者になったが庁内への波及が難しい結果となった経緯がある。
- ・＜指定管理者制度、委託仕様書の見直しについて＞
 - 委託は予算との関係？
 - 委託がいいかどうかの議論や判断も必要
- ・＜幅広い参画メニューについて＞
 - 市(職員)をカバーする市民 NPO の活かし方
 - 職員のローテーションが早すぎる
 - 行政の引継ぎしっかりしてほしい
 - NPO の良さ、継続性やすぐにでも動けるなど長いスパンで地域を見ているこれを活かす(サイレントマジョリティ 多くの市民に授ける工夫、策)
 - 誰でもできるものを考える仕組み。
 - NPO だから拾える市民の声、自由さもある(行政にはできない)(苦情対応の実績など)
 - 世代交代や仲間を増やす→NPO 活動を続けるにも大切

- ・＜行政側の施策における市民参加の原則必須化について＞
 - 市民協働の考え方思いの度合などがうちの課以外はみんなバラバラ。
 - 「経営企画」ってわかりにくい名前。「企画調整」はどうか
 - 市民と行政との研修をやっていた→NPO に行く職員研修で市民の働き体験
 - 育てる制度。市へつなげる制度も。NPO と市
- ・＜市民活動団体評価制度について＞
 - 市民グループを育てていく感覚が大切だろう。
 - 市民や市内団体の優遇。
- ・＜市の縦割りを繋ぐ部署の創設について＞
 - 窓口が1本で何でも来て行先案内をする
- ・＜役割が被っている組織の一本化について＞
 - 例えば観光協会の役割を市民、NPO がやる可能性も。
- ・＜団体育成制度として＞
 - NPO グループ同志の連携をもっと増やしたい。友情を育てる制度。

■ チーム2発表

全体的な所で言うと行政がとか、市民が、という所だけではなく、そもそもNPOの活動に特化した人が必要なのではないかという話になりました。

そういう人が行政にも常に居て、NPOの団体にも常に居て、そこを繋ぐ役割の人だったり、色々な場所にいればその人たちが繋ぎ役になった時に、この人に相談すれば、つなぎ役で必要な人が繋がっていくし、その中で人材もどんどん育つのではないかと話していました。

お金に関してでは、どこがではなく、どの団体がどんな風に使うかによっても変わってしまうところがあるので、どこが責任となるとすごく難しい。

お金も個人情報や人であっても信頼が出来る所に責任を持ってもらうことが一番だから、行政と意見もあったが、それだとNPOが実際にどういう活動をしているか知らなかったりするので、繋ぎもしづらい。

議会の評価の部分を感じて、実際にどんな活動をしているか分からず、良い活動をしているのにももらえないということもあるので一長一短。

人材はNPO専属のコーディネータとNPOにお手伝いに来る人とどちらが必要なのか ということでは、お手伝いでは若い人たちの参加が多い。震災のボランティアの時も若い人が多かった。だから参加したい人はたくさんいるはず。でもその人達を集めた時にどこに行けば良いかなど指示できる専属のコーディネータが必要、大切。NPO専属のコーディネータの方が必要なのではないかな。

施設によって、親子連れは来れるが、おじいさんだけでは来れないとか、社協のようなところでは60歳以上は来れるが、それ以外の人イベントでもない来れないので、若い世代を呼ぶことが出来ない。世代間交流をしましょうという話が出るが、そこが繋がられない。制限がある。そこを特

例を作ることによって境を取り払うことにより世代間交流もできるのではないかという話になりました。

②財源

- ・ファンド…認定 NPO、寄付控除と使い道の見えやすさ。
- ・行政…市役所(財務)←市民からの納税
- ・民間…銀行
- ・公益…財団法人
- ・評価できる中立した組織が必要(最も重要)
- ・議会からのチェックが入る(マニュアルと基準)
- ・鎌倉市…元気アップ事業(100万円)→NPO に振り分ける
- ・NPO 版ベンチャーキャピタル
- ・平塚市民ファンドの例
- ・リスクを背負いきれない
- ・クラウドファンディング

③人材

- ・プロボノ…NPO 支援センター、NPO
- ・金・人・情報は信用ある組織が管理すべし
- ・NPO 専属と NPO の手伝いの扱いが違う
- ・コーディネータ必要
- ・NPO・自治会
- ・「顔」となる人は必要
- ・評価項目に「市民とのつながり」を入れては？
- ・行政内にプロを育てる(3分野くらい)
- ・再任用の人達を活用する仕組みづくり

④場

- ・中間支援組織
- ・居心地の良い組織(NPO)
- ・幼稚園児、保育園児→原体験
- ・小さいころから、好きだから
- ・プラットフォーム(人の流動性)

⑤情報

- ・行政と NPO と企業のコラボ
- ・NPO センターの強化
- ・あるのに使われていない→NPO センターの役割重要
- ・条例で特例を作る(縦割りをとっばらう)
- ・老人福祉センターの事例
- ・志縁と地縁をつなぐ機能

⑥仕組み

- ・目標設定と検証
- ・利用者の評価
- ・公募制
- ・ビーのビーのの事例。「目指す姿」をじっくり議論。評価方法の合意も得る(始めに)
- ・NPO を知らない専門家を入れても意味が無い
- ・新しくみんなで作る
- ・NPO 協議会が NPO センターを育てる。
- ・NPO センターの改組
- ・人と団体の情報のコーディネート
- ・スタッフのスキル
- ・受容 + α (断らないで次につながるサポートを)
- ・NPO 支援センターの相談、コーディネート機能がない
- ・施設の目的ごとに違うはず
- ・管理側だけでなく、利用者目線の仕様
- ・内部組織の強化(けんかはやめよう)
- ・行政側と NPO 側
- ・鹿児島市では学校の中に公民館(犯罪率も低い)
- ・郷中教育(ごちゅうきょういく)
- ・横浜市コミュニティハウスの事例(地域とのつながりができ、防犯もできる)

■ 発表まとめ

短い時間でしたが、市の無茶ぶりにも皆さんうまく対応して頂きました。

チーム2は、皆さんNPOの活動をしている方を中心にしながら、その運用を見た上での役割、支援をしていくにはということで意見を出して頂いたようです。チーム1は項目に沿って振ってみると意外と過去の苦い経験とかが出てきた。

総括してみると一つ一つ丁寧にみていくと本当に色んな事が出てきた。今日の検討会は非常に意義深かったと思う。そこからヒントもあるし、枝分かれもしていくし、ここには何が足りないとか、NPOとして何が足りないとか、NPOとして頑張っているところは、それ以外の市民を巻き込んでいこうとか、行政側に頼らないとか、育つ育てるのは市民側で、それをしっかり支える制度であり、NPOセンターが必要である。やっている中でそこそこ出てきているが、まだ言い足りないみたいなのがまだまだたくさんある。全体としてももう少し話せたら良かったように思う。

またこういう時間をとってもいいかも知れませんね。ちょっと時間をおいてやるのも良いかなと思う。